

本科講座 37 繰越残高試算表

ねらい 繰越残高試算表について学習する。

帳簿の締め切りによって、損益計算書科目はすべて損益勘定に集計されて0となりますが、貸借対照表科目は残高が次期繰越となります。次期繰越では、勘定科目ごとに計算しますので、計算が間違っても、確認することができません。各勘定科目の次期繰越が合っているかどうかを確認するために、繰越残高試算表を作成します。繰越残高試算表では次期繰越の借方科目の合計金額と貸方科目の合計金額は必ず一致します。繰越試算表は、次期繰越のある科目つまり、貸借対照表科目（資産・負債・純資産）のみが記載されます。

本科講座 36 を例にすると

現金		売掛金	
72000	42000 次期繰越 30000	56000	11000 次期繰越 45000
繰越商品		備品	
43000	次期繰越 43000	16500	次期繰越 16500
買掛金		資本金	
30000 次期繰越 60000	90000	1000 次期繰越 49000	50000
売上		仕入	
11000 損益 97000	108000	70000	4000 損益 66000
支払家賃		雑費	
2500	損益 2500	3000	損益 3000

繰越（残高）試算表

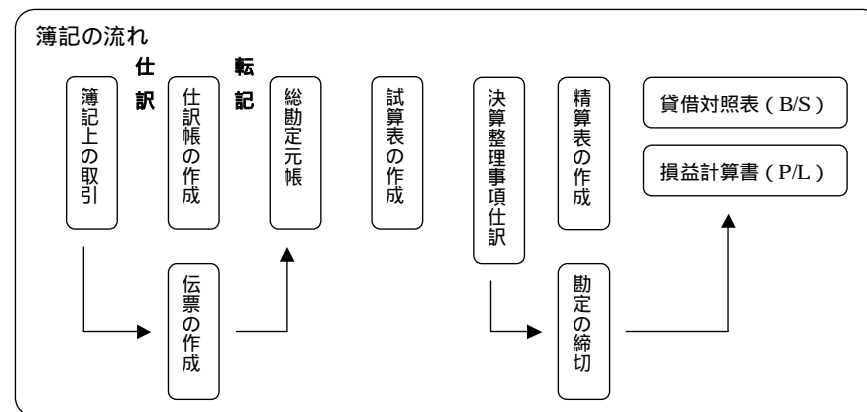
平成 年 12 月 31 日

借方	勘定科目	貸方
30,000	現金	
45,000	売掛金	
43,000	繰越商品	
16,500	備品	
	買掛金	60,000
	資本金	74,500
134,500		134,500

ここで注意する点は、資本金の金額です。帳簿の締め切りでは、資本金の次期繰越は 49,000 円ですが、本科講座 36 で学習したように、利益分の 25,500 円が次期は資本金に組み込まれますので資本金は 49,000 + 25,500 で 74,500 となるのです。

帳簿の締め切りと簿記の流れの関係

基礎講座の最初に簿記の流れを図で示しましたが、今まで学習したことを含めると以下のようになります。下記の流れて、進んでいくことを理解して下さい。



上記のように仕訳帳を使わずに伝票で代用することもできますし、利益を確定するだけならば、精算表を使わなくても、勘定の締め切りで利益を確定することもできます。

BREAK TIME 4 ちょっと休憩...

今までの学習お疲れさまでした。ここまでの学習で簿記 3 級内容の 90～95%の学習は終了しています。しかし、ここまでの学習知識を完璧にしても試験では 60 点程度の点数にしかなりません。簿記の試験（特に 3 級）では出題範囲、パターンが決まっているため、これに対応できる力を身につけることが必要になってきます。

では、今までの学習内容で試験に対応出来ない 5～10%分（得点で言えば 40 点分）は何を学習すればよいのでしょうか？ ずばりそれは帳簿の内容や、伝票の内容を読み取ることが試験では必要になってきます。「BREAK TIME 2」で、実際の仕訳帳の内容を解説したと思います。簿記では、仕訳帳の他に様々な帳簿が存在します。その帳簿の内容をもとにして試験では解答を導かなければならない問題もあります。

これ以降の本科講座 38～40 までは様々な帳簿や伝票について学習します。

帳簿の内容も理解できれば、試験で満点を取ること夢ではありません。